

標準施工要領書

カチオンタイト FS

ヤブ原産業株式会社
〒334-0054 埼玉県川口市安行北谷5-4-6
TEL 048(297)4111 FAX 048(290)1198

1. 特 長

- ・材 質 カチオン性アクリル樹脂セメントモルタル
- ・施工方法 コテ塗り
- ・用 途 各種塗材への仲介下地調整
陶磁器タイル、大理石、テラゾー等への仲介下地調整
コンクリート、モルタル等の欠損部補修及び中性化抑制
- ・適用下地 コンクリート、モルタル、エポキシ系塗床材、アクリル系防塵床材、磁器タイル、防水型を除く複層塗材上塗（アクリル系、ウレタン系）、P タイル接着剤（アクリル系、エポキシ系）、テラゾー等々

2. 工 程

工 程	材 料 ・ 調 合	施工器具	使 用 量	塗回数	間隔時間
主材塗り	カチオンタイト FS 主 材 : 16kg 硬化液 : 3.2~4kg	コ テ	1.7kg/m ² (1 mmの場合)	1~2	23℃で 12 時間以上

※上記の数値は全て標準のものです。施工下地、温度等環境条件により多少のずれが生じることがあります。

※上記材料はパール缶セットを示します。その他に大袋セットも用意しております。

3. 工 法

3-1 下地処理

- 1) 下地表面のレイタンス・ほこり・油脂等は、ケレン及び水洗いにて除去してください。
- 2) 脆弱な無機質下地の場合は、ガッチリ浸透プライマーW で下地強化してください。
- 3) 補修の際は、下地が躯体に対して十分な接着力があるか確認してください。
十分な接着力のない場合はケレンしてください。
- 4) 下地に撥水剤が塗布してある場合は、接着できないものもあります。あらかじめテストを行い、確認してください。また、ワックス類が塗ってある床仕上げ材の場合、ワックスクリーナー等で洗い落としてから施工してください。
- 5) ポリエステル、FRP、アルミニウム、ステンレス、軟質塩ビ、油面には接着できません。

3-2 混練方法

- 1) 練りませ容器に、まず硬化液のおよそ 80%を入れ、主材パウダーを徐々に加えながらハンドミキサー等でペースト状に練り上げます。ここで残りの硬化液を加えて、施工に適した粘度に調整します。水は絶対に混入しないでください。
- 2) 一度に混ぜ合せる量は、可使時間（夏期 60 分、冬期 120 分）以内に使いきる量とします。混練後、時間経過とともにしまっていきますので、可使時間以内であれば残りの硬化液を加えて調整してください。

3-3 主材塗り

- 1) 施工はコテ塗で行います。塗厚さは1mm以上としてください。但し、コテによるもみ過ぎに注意してください。
- 2) 滑面へ塗付ける場合は、一度しごき塗りしてから追かけで所定の厚さに塗付けてください。
- 3) 部分補修すると、その部分の吸込み性が異なり、仕上材の色ムラの原因となります。従って、均一な仕上げの為には、全面処理を必要とします。

4. 注意事項

- 1) 可使時間（夏期 60 分以内、冬期 120 分以内）を過ぎた材料を無理に練り戻して施工することは避けてください。硬化不良の原因となります。
- 2) 厚塗りする場合は、5mm以内としてください。塗重ねる場合は、5時間以上経過した後としてください。
- 3) カチオンタイトの上にセメントモルタルを施工する場合は、ガッチリ浸透プライマーWを塗布するかポリマーセメントモルタルとして施工してください。
- 4) カチオンタイト塗り後、モルタル、磁器タイル等重量物により仕上げる場合は、工程間隔を3日程度以上とり、カチオンタイトが十分に硬化した後としてください。
- 5) 強風時での施工及び施工後12時間以内に降雨のおそれがある場合は、施工を避けてください。また、3℃以下での施工も硬化が十分に果せませんので避けてください。
- 6) 下地が多少湿っていても施工できますが、濡れている場合は拭き取ってから施工してください。
- 7) 主材パウダーは水硬性ですので、水や湿気には十分注意して保管ください。
- 8) 硬化液は直射日光下、0℃以下での保管は避けてください。
- 9) セットされた材料以外のものは混入しないでください。
- 10) 材料の取扱いについては、製品に記載された注意事項をよく読んでからご使用ください。その他詳細な内容が必要な場合は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

5. 梱包形態

	内 容 量 (kg)	形 態	標準施工面積 (m ²)
20kg セット	パウダー : 16 硬化液 : 4	ペール缶	12 (t=1mmの場合)
64kg セット	パウダー : 25.5×2 硬化液 : 13	紙 袋 角 缶	37 (t=1mmの場合)

以上